

15年度(2003) 班会議

日 時: 2004年2月7日(土曜日)

場 所: 全共連ビル 本館4階 特別会議室 2
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-9

議 題: 研究成果発表

出席者: 金澤一郎、浅沼幹人、園田智広、戸田達史、野元正弘、野田和幸、長谷川一子、服部信孝、森豊隆志、山本光利、村田美穂、藤田晶子、工藤里美

(以上13名)

班会議プログラム

2004年2月7日(土) 11:00~15:00

- 11:00~11:05 厚生労働省疾病対策課 ご挨拶
11:05~11:10 国立精神・神経センター総長 金澤一郎先生 ご挨拶
11:10~11:15 班長 挨拶

発表時間は1題につき15分前後、午後のセッションは5分ずつ個別の質疑応答を入れ、最後に総合討論としたいと思います。

座 長 村田 美穂

11:15~

㊦ ゾニサミド使用実態に関するアンケート調査結果

○長谷川一子¹、村田美穂²、野元正弘³、服部信孝⁴

1 国立相模原病院神経内科、2 国立精神・神経センター武蔵病院神経内科、
3 愛媛大学医学部臨床薬理学・創薬育薬センター、4 順天堂大学脳神経内科

11:30~

㊦ ゾニサミド使用実態に関するアンケート調査結果(2)

○村田美穂¹、長谷川一子²、野元正弘³、服部信孝⁴、皆内康弘⁵

1 国立精神・神経センター武蔵病院神経内科、2 国立相模原病院神経内科、
3 愛媛大学医学部臨床薬理学・創薬育薬センター、4 順天堂大学脳神経内科、
5 みなうち内科・神経内科

11:45~

㊦ ゾニサミドによる精神症状

○山本光利

香川県立中央病院神経内科

紙上発表

㊦ パーキンソン病の治療抵抗性振戦に対する zonisamide の効果

○近藤智善、中西一郎、河本純子、三輪英人
和歌山県立医科大学医学部神経内科

Ⅳ-2 本態性振戦に対するゾニサミド、アロチノロールのクロスオーバー試験

○近藤智善、森田修平、三輪英人
和歌山県立医科大学医学部神経内科

12:00～ 総合討論

12:30～13:20 昼食

13:20～

Ⅴ パーキンソン病モデルサルにおけるゾニサミドの抗パーキンソン病作用
—ゾニサミドの抗パーキンソン病作用—

○野元正弘、張捷、矢部勇人、中塚晶子、永井将弘、森豊隆志
愛媛大学医学部臨床薬理学・創薬育薬センター

13:40～

Ⅵ ゾニサミドのグルタチオン増加作用とin vitroでのL-DOPA,ドパミンへの作用

○浅沼幹人
岡山大学大学院医歯学総合研究科神経情報学分野神経薬理化学

14:00～

Ⅶ In vitro 系を用いた細胞内封入体形成の検討:封入体形成は細胞死とは関連しない
—プロテアソーム系と細胞内封入体:新しい封入体細胞モデルの検討—

○野田和幸¹、北見聡章¹、服部信孝¹、水野美邦¹、田中 啓二²、Wei Ping Gai³
1順天堂大学脳神経内科、2東京都臨床医学総合研究所、
3Flinders University of South Australia

14:20～

Ⅷ パーキンソン病の遺伝子多型と発症リスクおよびゾニサミドの薬剤効果の研究

○戸田達史¹、水田依久子¹、佐竹 渉^{1,2}、廣田勇士¹、百瀬義雄³、田宮 元⁴、
猪子英俊⁴、山本光利⁵、服部信孝⁶、村田美穂⁷

1 大阪大学大学院医学系研究科ゲノム機能分野(臨床遺伝学)

2 大阪大学大学院医学系研究科神経内科

3 東京大学大学院医学系研究科 CBI

4 東海大学医学部分子生命科学 2

5 香川県立中央病院神経内科

6 順天堂大学医学部神経内科

7 国立精神・神経センター武蔵病院神経内科

16年度(2004) 班会議

日 時: 2005年1月22日(土) 11:00~15:00

場 所: ホテルはあといん乃木坂健保会館 311号室
107-0062 東京都港区南青山 1-24-4

議 題: 研究成果発表

出席者: 浅沼幹人、金澤一郎、近藤智善、佐竹 渉、園田智弘、南部 篤、中塚晶子、
野元正弘、野田和幸、長谷川一子、服部信孝、森田修平、村田美穂、山本光利、
工藤里美、藤田晶子

(以上 16名)

班会議プログラム

11:00~15:00

11:00~11:05 ご挨拶

発表時間は1題につき15分前後、セッション後5分ずつ個別の質疑応答を入れ、最後に総合討論としたいと思います。

座長 村田 美穂

11:05~

- ① ゾニサミドによるドパミン神経賦括作用の機序の検討
— マイクロダイアリシスによる検討 —
○園田智宏、高石智美、永井将弘、野元正弘
愛媛大学医学部臨床薬理 創薬治療内科・神経内科

11:25~

- ② ゾニサミドの作用機序 —パーキンソン病モデルサルによる検討—
○南部 篤、橘 吉寿
生理学研究所・生体システム研究部門

11:45~

- ③ マイクロサテライト多型によるゲノムワイド関連解析
戸田達史¹、○佐竹 渉^{1,2}、廣田勇士¹、百瀬義雄³、水田依久子¹、田宮 元⁴、猪子英俊⁴、
佐古田三郎²、山本光利⁵、服部信孝⁶、村田美穂⁷
1 大阪大学ゲノム機能、2 大阪大学神経内科、3 東京大学 CBI、4 東海大学分子生命科学 2、
5 香川県立中央病院神経内科、6 順天堂大学神経内科、7 国立精神・神経センター

12:05~13:00 昼食

13:00~

- ④ Zonisamide のユビキチン・プロテアソームシステムへの関与
○野田和幸、町田 裕、服部信孝

順天堂大学脳神経内科

13:20～

- 5] パーキンソン病モデルにおけるゾニサミドの L-DOPA 誘発キノン体毒性に対する保護効果

○浅沼幹人, 宮崎育子, 小川紀雄

岡山大学大学院医歯学総合研究科神経情報学分野

13:40～

- 6] レストレスレッグ症候群に対するゾニサミドの効果

○長谷川一子, 堀内恵美子

相模原病院神経内科

14:00～

- 7] 振戦に対する効果からみたゾニサミド(ZNS)の作用機序 —臨床的考察—

○森田修平, 中西一郎, 三輪英人, 近藤智善

和歌山県立医科大学神経内科

14:20～

- 8] ゾニサミドの抗パーキンソン効果(大規模二重盲検試験と3-5年の長期効果)

○村田美穂

国立精神・神経センター武蔵病院神経内科

14:40～ 総合討論

17年度(2005)班会議 brain storming

日時: 2005年7月8日(金)~9日(土)
7月8日(金)20:00~23:00
7月9日(土)9:00~12:00

場所: シーパレスリゾート
愛知県豊橋市神野新田町三ノ割1-3

議題: 研究成果発表

出席者: 金澤一郎、浅沼幹人、近藤智善、佐竹 渉、橘 吉寿、戸田達史、水田依久子、南部 篤、喜多 均、中塚晶子、野元正弘、長谷川一子、服部信孝、久保紳一郎、森田修平、矢部勇人、青木芳嗣、斉藤勇二、村田美穂、堤 悦子、工藤里美、藤田晶子

(以上 22 名)

brain storming プログラム

7月8日

19:00 ~23:00

挨拶 19時-

19時夕食

※ いずれのセッションもそれぞれ20-30分で現在までに状況と今後の課題について presentation してください。そのあと、全員で今後の展開について discussionをお願いします。

座長 村田美穂

20時-23時 ZNS の作用機序について

① 会社の仕事も含めてこれまで出ているデータについて

村田 美穂 : 国立精神・神経センター 武蔵病院神経内科

② 動物実験での生化学的データ

野元正弘 矢部勇人 : 愛媛大学医学部臨床薬理学講座 神経内科

③ 生理学的なデータ

南部 篤 橘 吉寿 喜多也寸志 : 自然科学研究機構生理学研究所 生体システム研究部門

7月9日

9:00~13:30

8時朝食

9時-12時 ZNS の神経保護作用について

① キノン体の神経細胞死へのかかわりを中心に

服部信孝 : 順天堂大学医学部 神経学教室

② ZNS の神経保護作用について

浅沼幹人 : 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科脳神経制御学 神経情報学

12時昼食

③ 今後の展開について discussion

17年度(2005) 班会議

日時: 2006年1月21日(土) 11:00~16:00

場所: ホテルはあといん乃木坂健保会館 311号室
107-0062 東京都港区南青山 1-24-4

議題: 研究成果発表

出席者: 金澤一郎、浅沼幹人、近藤智善、戸田達史、橘 吉寿、南部 篤、野元正弘、
長谷川一子、町田 裕、宮崎育子、吉見建二、村田美穂、藤田晶子、工藤里美

(以上 14名)

班会議

11:00~16:00

—プログラム—

11:00 挨拶 村田美穂

座長 村田美穂

11:10-11:35 脳内ドパミン代謝に対するゾニサミドの作用—マイクロダイアリシスによる検討—
愛媛大学医学部臨床薬理学 ○野元正弘、園田智広、高石知美、中塚晶子、永井将弘
鹿児島大学大学院神経学講座 加世田俊

11:35-12:00 ゾニサミドの作用機序 —パーキンソン病モデルサルによる検討—
生理学研究所・生体システム研究部門 ○南部 篤、橘 吉寿

12:00-12:25 Zonisamide (ZNS)の臨床効果の検討
—パーキンソン病のドパミン作動性治療抵抗性振戦, 本態性振戦, すくみ足—
和歌山県立医科大学神経内科 ○近藤智善

12:25-13:25 昼食

13:25-13:50 ゾニサミドにパーキンソン病発症予防効果はあるか?
国立病院機構相模原病院神経内科 ○長谷川一子、堀内恵美子、川瀬裕士

13:50-14:15 Zonisamide の長期効果
国立精神・神経センター武蔵病院神経内科 ○村田美穂

14:15-14:40 パーキンソン病の遺伝子多型と発症リスクおよびゾニサミドの薬剤効果の研究
○戸田達史¹、水田依久子¹、佐竹 渉¹、猪子英俊²、山本光利³、服部信孝⁴、村田美穂⁵
1. 大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝学 2. 東海大学医学部分子生命科学 2 3. 香川県立中央
病院神経内科 4. 順天堂大学医学部神経内科 5. 国立精神神経センター武蔵病院神経内科

14:40-15:05 Zonisamide の神経細胞保護作用に関する研究
順天堂大学脳神経内科 ○町田 裕 久保紳一郎 服部信孝

15:05-15:30 ゾニサミドの L-DOPA 誘発キノン体毒性に対する保護効果の発現メカニズム

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科神経情報学分野 ○浅沼幹人, 宮崎育子, 小川紀雄 岡

15:30-16:00 総合討論

IV 班 構 成 員 名 簿

「日本発の新しい抗パーキンソン作用薬ゾニサミドの臨床研究班」

(H15-難治-01)

15年度 班構成員

	氏名	所属	職名
主任研究者	村田 美穂	国立精神・神経センター武蔵病院神経内科	医長
分担研究者	野元 正弘	愛媛大学医学部臨床薬理学講座	教授
	長谷川一子	国立相模原病院神経内科	医長
	服部 信孝	順天堂大学脳神経内科・老人性疾患病態治療研究センター	助教授
研究協力者	浅沼 幹人	岡山大学大学院医歯学総合研究科 神経情報学分野神経薬理化学	助教授
	近藤 智善	和歌山県立医科大学医学部神経内科	教授
	戸田 達史	大阪大学大学院医学系研究科ゲノム機能分野	教授
	山本 光利	香川県立中央病院神経内科	部長
事務局	藤田 晶子	国立精神・神経センター TEL042-341-2711 Fax042-346-1705	
	工藤 里美	東京大学医学部附属病院神経内科内 TEL03-5800-8672 Fax03-5800-6548	

「日本発の新しい抗パーキンソン作用薬ゾニサミドの臨床研究班」

(H15-難治-01)

平成 16 年度 班構成員

	氏 名	所 属	職 名
主任研究者	村田 美穂	国立精神・神経センター武蔵病院神経内科	第二病棟 部長
分担研究者	浅沼 幹人	岡山大学大学院医歯学総合研究科神経情報学 分野神経薬理化学	助教授
	近藤 智善	和歌山県立医科大学医学部神経内科	教 授
	戸田 達史	大阪大学大学院医学系研究科ゲノム機能分野	教 授
	南部 篤	自然科学機構生理学研究所 生体システム研究部門	教 授
	野元 正弘	愛媛大学医学部臨床薬理学講座	教 授
	長谷川一子	独立行政法人国立病院機構 相模原病院神経内科	医 長
	服部 信孝	順天堂大学脳神経内科・老人性疾患病態治療 研究センター	助教授
研究協力者	山本 光利	香川県立中央病院神経内科	部 長
事務局	藤田 晶子	国立精神・神経センター 〒187-8551 東京都小平市小川東町 4-1-1 Tel.042-341-1780 Fax042-346-1762	

「日本発の新しい抗パーキンソン作用薬ゾニサミドの臨床研究班」

(H15-難治-01)

平成 17 年度 班構成員

	氏 名	所 属	職 名
主任研究者	村田 美穂	国立精神・神経センター武蔵病院神経内科	第二病棟部長
分担研究者	浅沼 幹人	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科脳神経制御講座神経情報学	助教授
	近藤 智善	和歌山県立医科大学医学部神経内科	教授
	戸田 達史	大阪大学大学院医学系研究科遺伝医学講座臨床遺伝学教室	教授
	南部 篤	岡崎国立共同研究機構生理学研究所生体システム研究部門	教授
	野元 正弘	愛媛大学医学部臨床薬理学講座	教授
	長谷川一子	国立病院機構相模原病院神経内科	医長
	服部 信孝	順天堂大学医学部神経学教室	助教授
事務局	藤田 晶子 工藤 里美	国立精神・神経センター 〒187-8551 東京都小平市小川東町 4-1-1 Tel042-341-1780/042-341-2712(3419) Fax042-346-1735	

V 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表（15年度）

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
村田美穂	パーキンソン病の治療(4)自律神経症状の治療	水野美邦, 近藤智善	よくわかるパーキンソン病のすべて	永井書店	大阪	2003	152-159
長谷川一子	日本神経学会「パーキンソン病治療ガイドライン」	作成小委員会	パーキンソン病治療ガイドライン—マスターエディション	医学書院	東京	2003	
長谷川一子	Parkinson 病とその他の錐体外路疾患.	福井次矢, 黒川清監修.	ハリソン内科学. 原著 15 版日本語訳	メデイカルサイエンスインターナショナル	東京	2003	2463-2470
堀内恵美子, 長谷川一子	case15 振戦, 歩行障害で発症した49歳男性.	鈴木則宏編	専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ7神経疾患第3版	日本医事新報社	東京	2003	153-162
服部信孝, 水野美邦	パーキンソン病の原因を追って—孤発性パーキンソン病, 家族性パーキンソン病発症の分子機構		最新医学・第58巻・第1号 第39回ベルツ賞受賞論文	最新医学社	東京	2003	148-182
Hattori N, Mizuno Y.	Parkin and Parkinson disease.	Edited by Cooper D, Macmillan Publishing Ltd	Encyclopedia of the human genome	Nature publishing group	London, New York, Tokyo,	2003	492-497
服部信孝	パーキンソン病の発症機序—今その病態ここまでわかった—.	水野美邦	特集 パーキンソン病の新しい展開. Medical Science Digest Vol.29 No.6 , 特集編輯	ニュー・サイエンス社	東京	2003	22-25
服部信孝	薬物療法のすべて. 難病と在宅ケア		パーキンソン病講座	(株)日本プランニングセンター	東京	2003	55-56
服部信孝	4.パーキンソン病研究の進歩{パーキン蛋白の機能解析と黒質変性およびその防御}		脳科学研究の現状と課題—脳とこころの病気の解明はここまで進んだ—	じほう	東京	2003	115-130

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
<u>Murata M.</u>	Novel therapeutic effects of the anti-convulsant, Zonisamide, on Parkinson's disease.	Current Pharmaceutical Design	10	687-693	2004
<u>Murata M</u> , <u>Horiuchi E</u> , <u>Tsuji S</u> , <u>Kanazawa I.</u>	Zonisamide- A new drug for Parkinson's disease 1. Long-term clinical effects.	Neurology	60(Suppl1)	A288	2003
<u>Ikebe S</u> , <u>Harada T</u> , <u>Hashimoto T</u> , <u>Kanazawa I</u> , <u>Kuno S</u> , <u>Mizuno Y</u> , <u>Mizuta E</u> , <u>Murata M</u> , <u>Nagatsu T</u> , <u>Nakamura S</u> , <u>Takubo H</u> , <u>Yanagisawa N</u> , <u>Narabayashi H.</u>	Prevention and treatment of malignant syndrome in Parkinson's disease: a consensus statement of the malignant syndrome research group.	Parkinsonism Relat Disord.	9(Suppl 1)	S47-S49	2003
<u>Toda T</u> , <u>Momose Y</u> , <u>Murata M</u> , <u>Tamiya G</u> , <u>Yamamoto M</u> , <u>Hattori N</u> , <u>Inoko H.</u>	Toward identification of susceptibility genes for sporadic Parkinson's disease.	J Neurol.	250(Suppl 3)	III/40-III/43	2003
<u>Liu W</u> , <u>Goto J</u> , <u>Wang YL</u> , <u>Murata M</u> , <u>Wada K</u> , <u>Kanazawa I.</u>	Specific inhibition of Huntington's disease gene expression by siRNAs in cultured cells.	Proc Japan Acad.	79 SerB	293-298	2003
<u>村田美穂</u>	新しいパーキンソン病治療薬	Medical Science Digest	29	18-21	2003
<u>村田美穂</u>	神経内科のすすめ	内科	91	588-590	2003
<u>Oyoshi T</u> , <u>Nomoto M</u> , <u>Hirano H</u> , <u>Kuratsu J.</u>	Pathodynamics of Nitric Oxide Production Within Implanted Glioma Studied With an In Vivo Microdialysis Technique and Immunohistochemistry.	J Pharmacol Sci	91	15-22	2003
<u>Nomoto M.</u>	Clinical pharmacology and neuroprotection in Parkinson's disease.	Parkinsonism & Related Disorders	9 (Suppl)	55-58	2003
<u>Jie Zhang</u> , <u>Fu-rong Qu</u> , <u>Nakatsuka A</u> , <u>Nomura T</u> , <u>Nagai M</u> , <u>Nomoto M.</u>	Pharmacokinetics of L-dopa in Plasma and Extracellular Fluid of Striatum in Common Marmosets.	Brain Reserch	993	54-58	2003
<u>中塚晶子</u> , <u>野本正弘</u>	抗パーキンソン病薬の種類とその特徴	日本内科学会雑誌	92	29-35	2003
<u>Y Mizuno</u> , <u>N Yanagisawa</u> , <u>S Kuno</u> , <u>M Yamamoto</u> , <u>K Hasegawa</u> , <u>H Origasa</u> , <u>H Kowa</u> , and the Japan Pramipexole study group:	Randomized, double-blind study of pramipexole with placebo and bromocriptine in advanced Parkinson's disease.	Movement Disord	18	1149-1156	2003

長谷川一子	「エキスパートに学ぶ治療戦略」パーキンソン病S	今日の治療第	10	39-42	2003
長谷川一子, 和田千鶴, 豊島 至	前頭側頭型痴呆—FTDP-17を中心に. 内科キーワード	内科	91	1319-1320	2003
長谷川一子	遺伝性ジストニア. 内科キーワード	内科	91	1321-1322	2003
長谷川一子	パーキンソン病の治療—自律神経, 痴呆, 精神症状に対する治療.	日本内科学会誌	92	1438-1447	2003
長谷川一子	パーキンソン病に於ける薬物療法 ドパミンアゴニストのエビデンスをどう読むか?	Mebio	20	150-153	2003
長谷川一子	早期パーキンソン病の治療方針.	日本医事新報	89	4142	2003
長谷川一子	神経内科領域におけるめまい	カレントセラピー	21	41-46	2003
Kobayashi H, Krüger R, Maropoulou K, Wszolek Z, Chace B, Taka H, Mineki R, Murayama K, Riess O, Mizuno Y, Hattori N:	Haploinsufficiency at the α -synuclein gene underlies phenotype severity in familial Parkinson's disease	Brain	126	32-42	2003
Kobayashi T, Matsumine H, Zhang J, Imamichi Y, Mizuno Y, Hattori N:	Pseudo-autosomal dominant inheritance of Park2: two families with parkin gene mutations.	J Neurol Sci	207	11-17	2003
Inzerberg R, Hattori N, Nisipeanu P, Blumen S, Carasso RL, Mizuno Y Neurology 60:1393-1394, 2003	Two different phenotypes of the same Parkin mutations in a large family.	Neurology	60	1393-1394	2003
Sakata E, Yamaguchi Y, Kurimoto E, Kikuchi J, Yokoyama S, Kawamura H, Yokosawa H, Hattori N, Mizuno Y, Tanaka K, Kato K.	Parkin binds the S5a subunit of 26S proteasome with the ubiquitin-like domain.	EMBO rep	4	301-306	2003

Gouider-Khouja N, Larnaout A, Amouri R, Sfar S, Belal S, Ben hamida C, Ben Hamida M, <u>Hattori N</u> , Mizuno Y, Hentati F	Autosomal recessive parkinsonism linked to parkin gene in a Tunisian family. Clinical, genetic and pathological study.	Parkinsonism Relat Disord	9	247-251	2003
Okuma Y, <u>Hattori N</u> , Mizuno Y.	Sensory neuropathy in autosomal recessive juvenile parkinsonism (Park2).	Parkinsonism Relat Disord	9	313-314	2003
Kim SJ, Sung JY, Um JW, <u>Hattori N</u> , Mizuno Y, Tanaka K, Paik SR, Kim J, Chung KC.	Parkin cleaves intracellular alpha-synuclein's inclusions via the activation of calpain.	J Biol Chem	278	41890-41899	2003
Nagano Y, Yamashita H, Takahashi T, Kishida S, Nakamura T, Iseki E, <u>Hattori N</u> , Mizuno Y, Kikuchi A, Matsumoto M.	Siah-1 facilitates ubiquitination and degradation of synphilin-1.	J Biol Chem	278	51504-51514	2003
Takahashi R, Imai Y, <u>Hattori N</u> , Mizuno Y.	Parkin and endoplasmic reticulum stress.	Ann NY Acad Sci	991	101-106	2003
Mori H, <u>Hattori N</u> , Mizuno Y.	Genotype-phenotype correlation: familial Parkinson disease.	Neuropathology	23	90-94	2003
<u>Hattori N</u> , Kobayashi H, Sasaki-Hatano Y, Sato k, Mizuno Y.	Familial Parkinson's disease: a hint to elucidate the mechanisms of nigral degeneration.	Journal of Neurology	205 [suppl3]	III/2-III/1	2003
Toda T, Momose Y, Murata M, Tamiya G, Yamamoto M, <u>Hattori N</u> , Inoko H.	Toward identification of susceptibility genes for sporadic parkinson's disease.	Journal of Neurology	205 [suppl3]	III/40-III/43	2003
<u>Hattori N</u> .	Appropriate dosing of pergolide in monotherapy and adjunctive therapy in Parkinson's disease.	Current Opinion in Neurology	16 [suppl1]	S21-S25	2003
服部信孝, 水野美邦.	パーキンソン病の原因を追って: 孤発性パーキンソン病, 家族性パーキンソン病発症の分子機構 ベルツ賞 2002 年度受賞論文抄録紹介(1等賞)	日本医師会雑誌	129	777-784	2003

服部信孝, 波多野靖子, 佐藤健一, 水野美邦.	特集パーキンソン病と類縁疾患. ITピックス 3. 若年性パーキンソンニズム.	日本内科学会雑誌	9	1406-1423	2003
服部信孝, 小林洋和, 水野美邦.	脳神経領域 パーキンソン病の遺伝子疫学.	現代医療	35	225-233	2003
服部信孝, 水野美邦.	パーキンソン病の原因を追って—孤発性パーキンソン病, 家族性パーキンソン病発症の分子機構—.	最新医学	58	148-182	2003
服部信孝	医学用語解説 パーキン遺伝子	炎症と免疫	11	130(244) — 131(245)	2003
服部信孝	家族性 parkinson 病研究の最前線.	神経内科 特集 Parkinson 病の成因と治療の最新トピックス.	58	534-543	2003
服部信孝, 波田野靖子, 佐藤健一, 水野美邦	パーキンソン病と類縁疾患 1. トピックス 3. 若年性パーキンソンニズム	日本内科学会雑誌	92	16-23	2003
服部信孝, 小林洋和, 水野美邦	パーキンソン病の遺伝疫学	現代医療.	35	225-233	2003
服部信孝, 水野美邦	第 39 回ベルツ賞受賞論文: パーキンソン病の原因を追って—孤発型パーキンソン病, 家族性パーキンソン病発症の分子機構—	最新医学	58	148-182	2003
服部信孝	Parkin と α -Synuclein の生化学	遺伝子医学	17	58-63	2003
服部信孝, 水野美邦	ベルツ賞 2002 年度受賞論文抄録紹介(一等賞): パーキンソン病の原因を追って: 孤発型パーキンソン病, 家族性パーキンソン病発症の分子機構	日本医師会雑誌	129	777-782	2003
服部信孝	パーキンソン病とユビキチンシステム	ファルマシア	39	1063-1068	2003

研究成果の刊行に関する一覧表（16年度）

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
永井将弘, 野元正弘.	消化器官作用薬	平井俊策	薬物による痴呆 痴呆症学(2)62	日本臨床社	東京	2004	498-502
近藤智義	Parkinson病, 家族性Parkinson病	平井俊策	薬物による痴呆 痴呆症学(2)62	日本臨床社	東京	2004	97-101
野元正弘.	筋弛緩薬, 局所麻酔薬		シンプル薬理学	南江堂	東京	2004	93-100
Nambu A.	A New Dynamic Model of Cortico-Basal Ganglia Loop.	Mori S, Stuart DG, Wiesendanger M.	Brain Mechanisms for the Integration of Posture and Movement. Prog Brain Res 143	Elsevier	Amsterdam	2004	461-466
長谷川一子.	パーキンソン病の内科的治療	山口徹, 北原光夫	今日の治療 2004	医学書院	東京	2004	634-636
長谷川一子.	パーキンソン病の治療(1)早期パーキンソン病の治療	水野美邦, 近藤智善	よくわかるパーキンソン病のすべて	永井書店	大阪	2004	100-119
長谷川一子.	パーキンソン病の治療薬の種類, 特徴, 副作用, いつ使うか	水野美邦	パーキンソン病治療薬の選び方と使い方	南江堂	東京	2004	
長谷川一子.	7) 食事上の注意 28) 排泄, 転倒, 服の着脱, 睡眠 29) スポーツ, 趣味, レクリエーションなど	神奈川パーキンソン病の治療を考える会編	パーキンソン病セルフケアマニュアル	新樹社	東京	2004	
村田美穂.	パーキンソン病の治療(4)自律神経症状の治療.	水野美邦, 近藤智善	よくわかるパーキンソン病のすべて	永井書店	大阪	2004	152-159

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Diaz-Corrales FJ, Asanuma M, Miyazaki I, Ogawa N.	Rotenone induces disassembly of the Golgi apparatus in the rat dopaminergic neuroblastoma B65 cell line.	Neurosci Lett	354	59-63	2004
Miyoshi K, Asanuma M, Miyazaki I, Diaz-Corrales FJ, Katayama T, Tohyama M, Ogawa N.	DISC1 localizes to the centrosome by binding to kendrin.	Biochem Biophys Res Commun	317	1195-1199	2004
Higashi Y, Asanuma M, Miyazaki I, Hattori N, Mizuno Y, Ogawa N.	Parkin attenuates manganese-induced dopaminergic cell death.	J Neurochem	89	1490-1497	2004
Tanaka K, Asanuma M, Ogawa N.	Molecular basis of anti-apoptotic effects of immunophilin ligands on hydrogen peroxide-induced apoptosis in human glioma cells.	Neurochem Res	29	1529-1536	2004
Higashi Y, Asanuma M, Miyazaki I, Ogawa N.	Expression of metallothionein-III and cell death in differentiated catecholaminergic neuronal cells.	Neurol Res	26	671-676	2004
Asanuma M, Miyazaki I, Higashi Y, Tsuji T, Ogawa N.	Specific gene expression and possible involvement of inflammation in methamphetamine-induced neurotoxicity.	Ann NY Acad Sci	1025	69-75	2004
Miyazaki I, Asanuma M, Diaz-Corrales FJ, Miyoshi K, Ogawa N.	Direct evidence for expression of dopamine receptors in astrocytes from basal ganglia.	Brain Res	1029	120-123	2004
Asanuma M, Miyazaki I, Ogawa N.	Neuroprotective effects of nonsteroidal anti-inflammatory drugs on neurodegenerative diseases.	Curr Pharm Des	10	695-700	2004
Hozumi I, Asanuma M, Yamada M, Uchida Y.	Metallothioneins and neurodegenerative diseases.	J Health Sci	50	323-331	2004
Asanuma M, Miyazaki I, Diaz-Corrales FJ, Ogawa N.	Quinone formation as dopaminergic neuron-specific oxidative stress in pathogenesis of sporadic Parkinson's disease and neurotoxin-induced parkinsonism.	Acta Med Okayama	58	221-233	2004
浅沼幹人, 宮崎育子	遺伝子改変によるパーキンソン病モデル.	脳の科学 (2004増刊号)	292	165-170	2004
小川紀雄, 浅沼幹人, 田中健一.	Parkinson病薬物治療の将来—進行抑制薬実現の可能性.	医学のあゆみ	208	583-588	2004
浅沼幹人, 宮崎育子, 小川紀雄.	実験的パーキンソニズムに用いられる薬剤—MPTP, 6-ヒドロキシドパミンならびにロテノン.	医薬ジャーナル	40	111-116	2004
浅沼幹人.	酸化ストレスとミトコンドリア機能障害, 炎症反応—孤発性パーキンソン病とドパミン神経毒研究から得たもの.	内科	93	611-615	2004

小川紀雄, 浅沼幹人, 三好 耕.	パーキンソン病における細胞死の機序.	日本臨床	62	1629-1634	2004
Nakanishi I, Kohmoto J, Miwa H, <u>Kondo T.</u>	A pilot cross over study of the effect of zonisamide and trihexyphenidyl on Parkinsonian tremor.	Movement Disorder	19(S9)	S147	2004
Morita S, Miwa H, Nakanishi I, <u>Kondo T.</u>	Effect of zonisamide on essential tremor:a pilot crossover study in comparison with arotinolol.	Movement Disorder	19(S9)	S440	2004
Maraganore DM, Lesnick TG, Elbaz A, Chartier-Harlin M-C, Gasser T, Krueger R, <u>Hattori N</u> , Mellick GD, Quattrone A, Satoh J-i, <u>Toda T</u> , Wang J, Ioannidis JPA, Rocca WA, and the UCHL1 Global Genetics Consortium.	UCHL1 is a Parkinson's disease susceptibility gene.	Ann Neurol	55	512-521	2004
Popiel HA, Nagai Y, Onodera O, Inui T, Fujikake N, Urade Y, Strittmatter WJ, Burke JR, Ichikawa A, <u>Toda T.</u>	Disruption of the toxic conformation of the expanded polyglutamine stretch leads to suppression of aggregate formation and cytotoxicity.	Biochem Biophys Res Commun	317	1200-1206	2004
Akasaka-Manyá K, Manyá H, Kobayashi K, <u>Toda T</u> , Endo T.	Structure-function analysis of human protein O-linked mannose b1,2-N-acetylglucosaminyltransferase 1, POMGnT1.	Biochem Biophys Res Commun	320	39-44	2004
Longman C, Mercuri E, Cowan F, Allsop J, Brockington M, Jimenez-Mallebrera C, Kumar S, Rutherford M, <u>Toda T</u> , Muntoni F.	Antenatal and postnatal brain magnetic resonance imaging in muscle-eye-brain disease.	Arch Neurol	61	1301-1306	2004
Kurahashi H, Inagaki H, Yamada K, Ohye T, Taniguchi M, Emanuel BS, <u>Toda T.</u>	Cruciform DNA structure underlies the etiology for palindrome-mediated human chromosomal translocations.	J Biol Chem	279	35377-35383	2004
Hatano Y, Li Y, Sato K, Asakawa S, Yamamura Y, Tomiyama H, Yoshino H, Asahina M, Kobayashi S, Hassin-Baer S, Lu CS, Ng AR, Rosales RL, Shimizu N, <u>Toda T</u> , Mizuno Y, <u>Hattori N.</u>	Novel PINK1 mutations in early-onset parkinsonism.	Ann Neurol	56	424-427	2004